

倉万葉の里マラソン2010

ここには
寒さを忘れさせる
温かい人情がある



①フルマラソンを走る選手が能登島大橋を埋め尽くす ②ボランティアで選手を応援している鹿西高校野球部員とともにテレビレポートに来ていた芸能人の「猫ひろし」さんも一緒に応援 ③競技終了後に仲良く炭火焼カキを食べる選手たち

目指せ！ 日本一の人情マラソン

今年で2回目の開催となる「能登和倉万葉の里マラソン」。全国各地から昨年よりも600人余り多い5,655人の参加があった。昨年は天候にも恵まれ、立山連峰も歓迎してくれているかのような澄み切った空気で、選手にとっては最高の条件だったが、今年は時折雨が降るあいにくの天候。気温も10度を下回り、選手にとっては寒さとの戦いにも近い状態。だがこの大会には、寒さや天候を忘れさせるぐらいの心温まる「おもてなし」が存在していたように思う。各種団体、学校、企業などから約1,200人の方々にボランティアとして協力があり、沿道ではドリンク、バナナ、どんぶり、細巻きなどを提供、「牡蠣フェスティバル」会場では殻付きカキやカキ鍋の配布、競技の運営に従事する人も。このように、市民一人ひとりが協力し合い「おもてなし」の心をもって大会を盛り上げていくことで、市民協働ではないでしょうか。地域の方々が一人ひとり協力し合って地域を元気にしていくことが市民協働によるまちづくりであり、七尾を活性化させていくのではないのでしょうか。「交流体感都市」を目指す七尾市としては、この大会が市民協働型の

能登和



⑦



⑤



⑥



④



⑪



⑩



⑨



⑧



⑭



⑬



⑫

④男子マラソンの部で優勝した柿本さんと2位の藤野さん ⑤親子の部のゴール直前でのデットヒート ⑥ペースしながらの余裕の走り
⑦マラソンの部のスタート ⑧⑨⑩⑪被り物をして走る選手 ⑫応援に駆けつけた仲間がゴール前で横断幕を広げて祝福
⑬おそろいのTシャツを着こみ両手をあげて同時にゴール ⑭ゴールした瞬間「あんたがおったから走れた」と言って抱き合う選手

(撮影協力)
羽咋市総務課 石山 裕樹
志賀町情報推進課 小谷内 太士

今回の大会に参加された方々には、寒い中お疲れ様でした。親子の部、5^{km}、10^{km}、フルマラソンと距離は違いますが、最後まであきらめずにゴールを目指し、ゴール出来たときの達成感は何ともいえない気持ちだったと思います。また来年も今年以上に熱い「おもてなし」でお迎えますので、ぜひ参加してください。

交通規制などで市民の方々のご理解ご協力のもと、事故もなく終えることができました。本当にいろいろなところでボランティアや市民の方々一人ひとりの協力がありました。無事大会を終えることができました。この場を借りて心から感謝申し上げます。

大会となり、人情味あふれる「日本一の人情マラソン」となることを期待しています。来年度以降も皆様のご支援ご協力をお願いします。